

見直しの具体案

1. 見直し後の訓練概要

訓練科名	自動車整備科
区分	学卒者訓練
定員	20名【本校】
訓練期間	2年
訓練目標	・電気自動車（EV）、自動運転等の最新の技術にも対応した自動車の点検整備や故障診断の幅広い知識、技能を2年間の長期訓練で習得し、即戦力の自動車整備士を目指します。
目標資格	・2級自動車整備士（ガソリン、ディーゼル） ※実技試験免除【修了時】
その他取得可能な資格	・ガス溶接技能講習 ・アーク溶接等業務特別教育 ・低圧電気取扱者特別教育 ・中古自動車査定士技能検定（小型車）
主な就職先	・自動車販売店の自動車整備士、板金・塗装作業員 等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

- ・直近5年の入学率は99%、就職率は100%。**現状**
- ・全事業所の83%で若年層が不足、56%で技能職が不足。**ニーズ調査**
- ・基本的に現行の訓練科を継続しつつ、新たに自動運転技術やEV化に関する知識の習得を図る。**見直しの方向性**



3. 主な訓練内容

- ・業界講師等による自動運転技術やEV化に関する特別講義の実施、実習用電気自動車の導入などにより、次の訓練を充実させる。

- 学科** ・自動車工学
電気・電子理論（低圧電気取扱者特別講習、自動運転技術）
- 実技** ・自動車整備作業
電装（低圧電気取扱者特別講習、自動運転技術）

4. 見直しに伴う機械器具整備

実習用電気自動車（EV）

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
学科	自動車工学	
	自動車の構造・性能 (内燃)	エンジン本体、潤滑・冷却・燃料装置
	自動車の構造・性能 (車台)	動力伝達装置、懸架・舵取・制動装置
	自動車の力学・数学	荷重、圧力、走行性能、排気量、電気
	電気・電子理論 【拡充】	始動装置、充電装置、点火装置、電子制御装置、 低圧電気取扱者特別講習、自動運転技術
	材料	鉄鋼、非鉄金属、合金、合成樹脂、塗料
	燃料、潤滑剤	燃料の製法・取扱、潤滑油の目的・種類
	図面	製図の基礎、機械製図、電気配線図
	自動車整備	
	エンジン	エンジン本体、潤滑・冷却・燃料装置
	シャシ	動力伝達装置、懸架・舵取・制動装置
	電装	始動装置、充電装置、点火装置、電子制御装置
	故障原因探求	問診、実車確認、原因推定、整備、確認
	機器の構造・取扱	
	整備作業機器	工具及びエンジン、シャシ関連作業機器の取扱
	測定機器	一般計測機器の構造・取扱
	検査機器	保安基準適合性検査用の機器の構造・取扱
	自動車検査	道路運送車両の検査、自動車点検基準
	自動車整備に関する法規	道路運送車両法、保安基準
	生産工学概論	工場組織、品質管理、工具管理
安全衛生	手工具の取扱い、整備機器の取扱い、玉掛けの知識・クレーンの取扱い	
ガス・アーク溶接	ガス溶接、アーク溶接、ガス・アーク学科試験	
実技	工作作業	
	手仕上げ工作	ヤスリがけ、ねじ立て作業、文鎮の製作
	機械工作	切断、仕上げ作業、文鎮の製作
	測定作業	
	基本計測	長さ、隙間、振れ、曲がり
	自動車整備作業	
	エンジン	エンジン点検・分解・組立・調整・検査
	シャシ	シャシ点検・分解・組立・調整・検査
	電装【拡充】	電装点検・分解・組立・調整・検査、低圧電気取扱者特別講習、自動運転技術
	故障原因探求	問診、実車確認、原因推定、整備、確認
	自動車検査作業	定期点検、車検整備
	安全衛生作業	安全作業、整理整頓、避難訓練
	ガス・アーク溶接作業	基本溶接
	板金・塗装作業	自動車板金、塗装の基本
	専門実習	性能試験等
技能照査	技能照査学科、技能照査実技	

見直しの具体案

1. 見直し後の訓練概要

訓練科名	機械・制御エンジニア科（仮称）
区分	学卒者訓練
定員	20名【本校】
訓練期間	2年
訓練目標	・ものづくり現場のFA化にも対応した、生産機械の設計開発、機械操作、制御等の様々な知識・スキルを2年間の長期訓練で実践的に習得し、幅広く製造業の現場で即戦力となるエンジニアを目指します。
目標資格	・第二種電気工事士 ・技能検定 機械加工（普通旋盤作業）2級実技
その他取得可能な資格	・2次元CAD利用技術者試験2級 ・アーク溶接等業務特別教育
主な就職先	・幅広い製造業の機械部品加工技術者、ロボット・制御技術者 等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

<ul style="list-style-type: none"> ・現行のメカトロニクス科の直近5年の入学率は67%で低下傾向。就職率は97%。現状 ・全事業所の83%で若年層が不足、56%で技能職が不足。一方、受講生（高校生）が興味のある訓練内容として、プログラミング、AI、ロボット・FA技術が上位に挙げられている。ニーズ調査 ・FA化に対応するための訓練環境の強化、ロボットを活用した訓練の導入により魅力を高め、訓練生確保につなげる。見直しの方向性 ・科名について、当初提案では、デジタルものづくり科と機械エンジニア科という2案が示されたが、メインの科名のほかサブタイトルがあった方が、情報量が多く、利用者にとって良いのではないかと意見



3. 主な訓練内容

<ul style="list-style-type: none"> ・製造現場のFA化に対応した訓練内容とするため、マシニングセンタ（自動加工機）の更新、自動運搬・仕分け用ロボットの導入等により、次の訓練を充実させる。
<p>学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制御工学概論（制御用機械、シーケンス制御、FAシステム制御概論）
<p>実技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制御プログラム作成実習（基礎プログラミング、数値制御プログラミングⅠ、数値制御プログラミングⅡ、機器制御プログラミング） ・専門実習（マイコン制御、シーケンス制御、CAD/CAM、NC応用プログラミング、PLC制御、汎用・NC機械応用製作、汎用・NC機械応用製作）
<ul style="list-style-type: none"> ・科名をメカトロニクス科から機械・制御エンジニア科に変更する。

4. 見直しに伴う機械器具整備

<p>ハンドリングロボット マシニングセンタ 周辺機器・設置費</p>

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
学科	メカトロニクス工学概論	工学一般、ロボットの種類及び機構、生産機械の機構と制御、CAD 利用技術者試験級対策
	制御工学概論【拡充】	制御用機械、シーケンス制御、FAシステム制御概論
	生産工学概論	工場組織、工程管理、品質管理、設備保全
	機械工学	機械要素、機構と運動、機械一般
	電気工学	電気理論、電気工事、電気機器、各種の電気応用
	電子工学	電子回路、デジタル回路、マイコン制御
	情報通信工学	情報通信の種類と特徴、インターフェイス、CAD 利用技術者試験対策
	材料力学	荷重と応力、ひずみ、曲げ
	応用数学	測定と誤差、ベクトル、各種計算法、三角比とその応用
	材料	材料と試験法、金属材料、電気材料
	製図	用器画法、JIS製図規格、機械製図
	測定法及び試験法	計測法概論、計測・試験機器
	安全衛生	手工具の取扱いに関する安全管理、動力機械に関する安全管理、電気設備に関する安全管理、危険回避、事故防止、トラブルシューティング
	関係法規	特許法、実用新案法、著作権法
	機械設計	3次元CAD、機械要素設計、機械設計
	制御機器ソフトウェア	プログラム言語、プログラミング論、制御プログラム作成論
	機械工作法	切削理論、汎用工作機械、特殊工作機械、NC工作機械
	電気及び電子工作法	電気・電子工作用機器の取扱法、電気・電子機器の実装法
	メカトロニクス機器組立法	シーケンス機器組立・調整法、PLC機器組立・調整法、FAシステム組立・調整法
	実技	測定基本実習
機械操作及び工作基本実習		機械加工、技能検定課題、仕上げ・機械分解・組立作業、アーク溶接
コンピュータ操作基本実習		ワープロ、表計算、図形プロセッサ
製図基本実習		機械製図、電気製図、CAD製図概論
電気・電子回路組立基本実習		配線及び束線、電気回路組み立て、電子回路組み立て
安全衛生作業法		安全衛生作業法、環境整備
制御プログラム作成実習【拡充】		基礎プログラミング、数値制御プログラミングⅠ、数値制御プログラミングⅡ、機器制御プログラミング
メカトロニクス機器組立実習		PLC機器の組み立て・調整、PLC制御、油圧空気圧制御、FAシステム実習、シーケンス機器の組み立て・調整、PLC応用
操作及び保守実習		工作機械操作・保守・調整
専門実習【拡充】		マイコン制御、シーケンス制御、CAD/CAM、NC応用プログラミング、PLC制御、汎用・NC機械応用製作、汎用・NC機械応用製作
技能照査		技能照査（学科・実技）

見直しの具体案

1. 見直し後の訓練概要

訓練科名	電子情報／IoT科（仮称）
区分	学卒者訓練
定員	20名【本校】
訓練期間	2年
訓練目標	・IoTの開発に必要となる、プログラミング等のソフトウェア技術や電子回路設計等のハードウェア技術、ネットワーク、システム構築等の様々な知識・スキルを2年間の長期訓練で習得し、即戦力のデジタルエンジニアを目指します。
目標資格	・技能検定 電子機器組立て3級 ・デジタル技術検定3級 ・情報処理技術者試験（ITパスポート試験、基本情報技術者試験） ⑨日商PC検定（プログラミング）3級 ⑨IoTシステム技術検定〔基礎〕
その他取得可能な資格	・日商PC検定（データ活用）3級
主な就職先	・情報通信企業の通信ネットワーク技術者、ソフトウェア開発技術者 等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の電子情報科の直近5年の入学率は71%で低下傾向。就職率は99%。現状 ・ 全事業所の75%でデジタル人材が不足。ITベンダー系の事業所では全ての職種で人材が不足。一方、受講生（高校生）が興味のある訓練内容として、プログラミング、AI、ロボット・FA技術が上位に挙げられている。ニーズ調査 ・ IoT技術の活用で業務上の問題を解決できる人材を育成するため、訓練内容を充実する。見直しの方向性 ・ 電子情報／IoT科という科名は非常に良い。意見
--



3. 主な訓練内容

<ul style="list-style-type: none"> ・ IoT技術を総合的に活用した模擬工場実習機器を導入し、センサー組込みマイコンを活用したデジタル制御やネットワーク技術の習得等の訓練を充実させる。
<p>学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マイコン制御（マイコンとインターフェース、プログラミング）
<p>実技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パソコン制御実習（シリアル通信制御、マイコンと連携、制御プログラム、データ処理） ・ マイコン制御実習（マイコンの基礎概念、マイコンの基本構造、各種デバイスの理解と制御、各種デバイスを用いたシステム設計演習、応用機器の設計と製作実習）

4. 機械器具整備内容

植物工場制御工学学習システム

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
学科	電気理論	電気数学、直流回路、交流回路、基礎理論
	電子工学	半導体の構造、電子回路素子、増幅回路、オペアンプ、導電材料、絶縁材料、磁気材料、電子材料・部品
	コンピュータシステム概論	ネット社会とその特徴、デジタル技術と活用、情報処理システム概説、コンピュータのシステム構成
	ハードウェア	数値・データ表現・情報数学、プロセッサ・メモリアーキテクチャ、補助記憶・入出力アーキテクチャ
	アルゴリズムとデータ構造	基本データ処理、リスト・スタック・ソート・マージ
	プログラム言語（簡易言語）	簡易言語とプログラミング、センサ値の測定と制御
	プログラム言語（C言語）	C言語と構造化プログラミング、制御文・関数・ポインタ
	オペレーティングシステム	OSの目的、機能、ファイル構成・編成、データベース
	ネットワーク概論	プロトコルと伝送制御、ネットワークセキュリティ、システム運用と監査
	安全衛生	産業安全、労働衛生、安全衛生管理、関係法規
	システム工学	システム戦略、システム開発技術・プロジェクト、要求分析・定義、外部設計・内部設計・プログラム設計
	経営工学	企業活動、法務、経営戦略、企業会計、財務諸表・標準化、IE・OR
	生産管理	プレゼンテーション技能、QC活動・生産、工程、在庫管理、品質管理
	自動制御	シーケンス制御、PID制御、センサ
		マイコン制御【拡充】
実技	デジタル電子回路実習	基本論理回路・組み合わせ回路、順序回路、基礎電子回路、測定・オシロスコープ
	CAD実習	CAD基礎、3次元CAD、電気、電子製図、3Dプリンタの基礎、機械製図基礎、3次元CAD、3Dプリンタの活用
	コンピュータシステム操作実習	OS基本操作・ワード・エクセル、Linux基本操作・システム管理、webプログラミング、サーバ管理
	プログラム作成実習Ⅰ	マイコン自走ロボット製作・制御、簡易プログラミング・制御
	プログラム作成実習Ⅱ	配列処理・文字列処理プログラム、データ構造、ファイル入出力プログラム
	コンピュータ処理数学実習	関数処理・ベクトル・座標系処理、SPI

実技	デジタル制御実習	フリップフロップ、カウンタ、シフトレジスタ、デジタル検定、タイマ IC555 応用回路、センサ回路（光、ジャイロ、感圧）
	回路製作実習	技能検定電子機器組立課題の仕様、電子機器組立課題動作原理、使用工具、機械工作（技能検定対策）、基礎練習、組立手順（技能検定対策）、基板製作、評価
	安全衛生作業法	安全衛生作業法
	シーケンス制御実習	シーケンス制御回路、PLC 制御回路、ラダープログラム
	パソコン制御実習【拡充】	シリアル通信制御、マイコンと連携、制御プログラム、データ処理
	マイコン制御実習【拡充】	マイコンの基礎概念、マイコンの基本構造、各種デバイスの理解と制御、各種デバイスを用いたシステム設計演習、応用機器の設計と製作実習
	ネットワーク制御実習	ネットワークプログラミング・IoT
	オブジェクト指向言語実習	UML 基礎、クラス設計、C# 言語、オブジェクト指向開発実習
	ネットワーク実習	ネットワーク構築設計・機器設定、サーバ構築実習
	PLD 実習	PLD 制御基礎、PLD 実装配線
	専門実習	日程計画・仕様作成、プログラム作成・回路作製、プレゼンテーション作成、ドキュメント作成
	技能照査	技能照査（学科・実技）

見直しの具体案

1. 見直し後の訓練概要

訓練科名	金属加工科
区分	離職者訓練
定員	10名【本校】
訓練期間	1年【企業実習付】
訓練目標	・一連の金属加工技術（CAD設計から加工、各種溶接、検査等）を、企業実習を含む1年間の長期訓練で実践的・総合的に習得し、即戦力のエンジニアとして、幅広くものづくり現場への就労を目指します。
目標資格	・溶接技能者評価試験（基礎級）（手溶接、半自動溶接、TIG溶接）
その他の取得可能な資格	・ガス溶接技能講習 ・玉掛け特別教育 ・アーク溶接特別教育 ・研削砥石特別教育
主な就職先	・金属製品製造事業場、鉄骨建築事業場の金属溶接・溶断工 ・工場板金事業場、自動車板金（架装）事業場の工場板金工等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

- ・直近5年の入校率は32%と低い。就職率は80%。**現状**
- ・ものづくり系の事業所では、CAD業務の人材が不足、技専での訓練希望も高い。機械による自動化が困難な作業のある事業所では、金属加工分野の訓練ニーズが非常に高い（約8割が金属加工科、6割超が金属ものづくり科での訓練を希望）。**ニーズ調査**
- ・金属加工系の訓練科についても、見直しが必要ではないか。**意見**
- ・女性や若者など、3Kイメージで敬遠する求職者の間口を広げるため、作図やオペレーションの訓練（CAD・機械板金）を拡充するとともに、溶接シミュレーターの導入についても検討。**見直しの方向性**



3. 主な訓練内容

- ・機械板金とCADを組み合わせたカリキュラムとして、次の訓練を充実させる。
 - 学科** ・CAD操作法（CAD基本操作、基本図形作成、トレース、展開図作成）
 - 実技** ・溶接基本実習（ガス溶接、アーク溶接、ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育）
 - ・総合加工実習（総合加工実習、NCレーザー切断機操作、溶接ロボット、旋盤、フライス盤）
 - ・企業派遣訓練（実務実習）
- ・3Kイメージを緩和させ、かつ、効率的な訓練が可能となる溶接シミュレーターを導入する。

4. 見直しに伴う機械器具整備

- ・パソコンシステム（CADソフト）
- ・LAN工事（拡張工事）
- ・溶接シミュレーター

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
学科	機械工学	機構と運動、機械一般、砥石の取替え特別教育、クレーン操作特別教育、玉掛操作特別教育
	機械製図	製図の一般事項、三角法、用器画法、各種展開法
	溶接法	各種溶接法、溶接欠陥、ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育、粉じん作業特別教育
	特殊溶接法	炭酸ガスアーク溶接法、ティグ溶接、特殊切断、特殊金属溶接
	測定法	測定法の概要、各種測定器
	金属材料	金属の組織、金属材料
	板金加工法	プレス金型交換特別教育
	安全衛生	応急処置・救命処置、労働衛生、安全衛生管理、入校時、諸規則及び心得
	試験及び検査法	試験、検査一般、非破壊試験
	CAD操作法【拡充】	CAD基本操作、基本図形作成、トレース、展開図作成
実技	手仕上げ実習	金のこ、やすり、タップ、ダイス作業
	機械操作基本実習	各種測定、ボール盤、各種グラインダ作業、砥石の取替え特別教育、クレーン操作特別教育、玉掛特別教育
	溶接基本実習【拡充】	ガス溶接、アーク溶接、ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育
	ものづくり実習	ガス切断、製缶作業
	特殊溶接実習	MAG溶接、TIG溶接、薄板、厚板、全姿勢溶接、高度溶接
	試験及び検査実習	非破壊試験、破壊試験
	板金塗装実習	ひずみ取り、打出し、絞り、塗装、仕上げ
	プレス加工実習	板金機械操作、プレス金型交換特別教育
	安全衛生作業法	安全衛生作業法、作業手順書作成
	総合加工実習【拡充】	総合加工実習、NCレーザー切断機操作、溶接ロボット、旋盤、フライス盤
企業派遣訓練【拡充】	実務実習	

見直しの具体案

1. 見直し後の訓練概要

訓練科名	金属ものづくり基礎科
区分	離職者訓練
定員	10名【本校】
訓練期間	6か月
訓練目標	・一連の金属加工技術（CAD設計から加工、各種溶接、検査等）の基礎を、6か月の短期訓練で実践的・総合的に習得し、ものづくり現場への早期就労を目指します。
目標資格	・溶接技能者評価試験（基礎級）（手溶接、半自動溶接、TIG溶接）
その他取得可能な資格	・ガス溶接技能講習 ・玉掛け特別教育 ・アーク溶接特別教育 ・研削砥石特別教育
主な就職先	・金属製品製造事業場、鉄骨建築事業場の金属溶接・溶断工 ・工場板金事業場、自動車板金（架装）事業場の工場板金工等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

- ・直近5年の入校率は36%と低い。就職率は80%。**現状**
- ・ものづくり系の事業所では、CAD業務の人材が不足、技専での訓練希望も高い。機械による自動化が困難な作業のある事業所では、金属加工分野の訓練ニーズが非常に高い（約8割が金属加工科、6割超が金属ものづくり科での訓練を希望）。**ニーズ調査**
- ・金属加工系の訓練科についても、見直しが必要ではないか。**意見**
- ・女性や若者など、3Kイメージで敬遠する求職者の間口を広げるため、作図やオペレーションの訓練（CAD・機械板金）を拡充するとともに、溶接シミュレーターの導入についても検討。**見直しの方向性**



3. 主な訓練内容

- ・機械板金とCADを組み合わせたカリキュラムとして、次の訓練を充実させる。
 - 学科** ・CAD操作法（CAD基本操作、基本図形作成、トレース、展開図作成）
 - 実技** ・溶接基本実習（ガス溶接、アーク溶接、MAG溶接、TIG溶接、精密溶接、ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育）
 - ・総合加工実習（総合加工実習、NCレーザー切断機操作、溶接ロボットティーチング）
- ・3Kイメージを緩和させ、かつ、効率的な訓練が可能となる溶接シミュレーターを導入する。

4. 見直しに伴う機械器具整備

<p>(全て再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンシステム (CADソフト) ・LAN工事 (拡張工事) ・溶接シミュレーター

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
学科	機械工作	機械一般、砥石の取替え特別教育、クレーン操作特別教育、玉掛操作特別教育
	機械製図	製図の一般事項、三角法、用器画法、各種展開法
	溶接法	試験・検査法、非破壊試験、各種溶接法、高機能素材の溶接、各種切断法、溶接欠陥、ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育、粉じん作業特別教育
	金属材料	金属の組織、金属材料
	安全衛生	応急処置・救命処置、労働衛生、安全衛生管理、入校時、諸規則及び心得
	CAD操作法【拡充】	CAD基本操作、基本図形作成、トレース、展開図作成
実技	手仕上げ実習	金のこ、やすり、タップ、ダイス作業
	機械操作実習	各種測定、ボール盤、各種グラインダ作業、砥石の取替え特別教育、クレーン操作特別教育、玉掛特別教育
	溶接基本実習【拡充】	ガス溶接、アーク溶接、MAG溶接、TIG溶接、精密溶接、ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育
	ものづくり実習	ガス切断、製缶作業
	試験及び検査実習	非破壊試験、破壊試験
	安全衛生作業法	安全衛生作業法、作業手順書作成
	総合加工実習【拡充】	総合加工実習、NCレーザー切断機操作、溶接ロボットティーチング

見直しの具体案

1. 見直し後の訓練概要

訓練科名	住宅設備科（仮称）
区分	離職者訓練
定員	10名【本校】
訓練期間	6か月
訓練目標	・住宅設備の保守に必要な技能（電気・ガス・空調・給排水等各種設備の点検、修繕等）の基礎を、6か月の短期訓練で習得し、早期就労を目指します。
目標資格	・第二種電気工事士 ・液化石油ガス設備士 ・消防設備士 乙種第4類
その他取得可能な資格	・ガス溶接技能講習 ・アーク溶接特別教育
主な就職先	・電気設備工事企業の電気工事作業員 ・建築設備企業の空調・給排水衛生設備作業員 等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

- ・ 現行の環境エネルギー設備科（長期（1年）及び短期（6か月））の入校率は、直近5年で50%と低い。特に長期は38%と低い。就職率は73%で低下傾向。**現状**
- ・ 短期（6か月）のみの訓練科とし、訓練内容（住宅設備（電気・ガス・空調・給排水）の保守管理）が一目で分かる科名（「住宅設備科」）に変更する。**見直しの方向性**



3. 主な訓練内容

- ・ 電気設備やガス・空調・給排水の配管など住宅設備の保守管理に必要な技能の基礎を習得するため、現行の短期訓練のみを実施する。

学科 ・ 建築設備（給排水・給湯の配管施工法・管工作法、
空気調和・消防設備士の配管施工法・管工作法、
管の被覆施工法、配管材料、環境空調概論）

- 実技** ・ 電気工事配線実習（動力・配線工事作業、電気工事士試験演習作業、
電気測定作業）
- ・ 液化石油ガス設備士実習（配管材料及び工具の使用、硬質管の加工及び接続、器具等の取り付け、気密試験の実施、漏洩試験の実施、修了試験）
 - ・ 建築設備実習（環境空調実習）

4. 見直しに伴う機械器具整備

なし

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
学科	建築設備	給排水・給湯の配管施工法、給排水・給湯の管工作法、空気調和・消防設備士の配管施工法、空気調和・消防設備士の管工作法、管の被覆施工法、配管材料、各種試験法、関係法規、環境空調概論、製図
	電気工事士	電気理論、配電理論、電気機器・材料・工具、施工法、検査法、保安・法令、配線図
	液化石油ガス設備士	液化石油ガスに関する基礎知識、液化石油ガス設備工事に必要な機械・器具又は材料に関する基礎知識、配管設備・配管設計及び燃焼理論、液化石油ガス設備工事の施工方法、供給設備及び消費設備の検査方法、供給設備及び消費設備の保安に関する法令、修了試験
	建築構造	建築構造の種類と構造、屋根の種類と構造
	溶接法	ガス溶接法、アーク溶接法
	安全衛生	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
	実技	建築設備実習
電気工事配線実習		配線工事作業、電気工事士試験演習作業、電気測定作業
液化石油ガス設備士実習		配管材料及び工具の使用、硬質管の加工及び接続、器具等の取り付け、気密試験の実施、漏洩試験の実施、修了試験
電気設備施工実習		分電盤の切替、配線工事
溶接実習		ガス溶接等の業務のために使用する設備の取り扱い、アーク溶接装置の取扱い
安全衛生作業法		安全作業法、衛生作業法

見直しの具体案

1. 見直し後の訓練概要

訓練科名	⑨ビルメンテナンス科（仮称）
区分	離職者訓練
定員	10名【本校】
訓練期間	6か月
訓練目標	・オフィスビル、マンション等のビルメンテナンス業務に必要な技能（電気・熱源・空調・給排水等各種設備の管理、点検、保守等）の基礎を、6か月の短期訓練で習得し、早期就労を目指します。
目標資格	⑨第二種電気工事士 ⑨二級ボイラー技士 ⑨ボイラー実技講習 ⑨第三種冷凍機械責任者
その他取得可能な資格	⑨危険物取扱者試験 乙種第4類
主な就職先	・ビルメンテナンス企業のビル設備管理員 等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

- ・ 現行の環境エネルギー設備科（長期（1年）及び短期（6か月））の直近5年の入校率は50%と低い。特に長期は38%と低い。就職率は73%で低下傾向。現状
- ・ ビルメンテナンス業種の事業所では、設備・電気設備の保守管理ができる技術作業員が不足。約5割が、設備保守管理ができる人材の技専での育成を希望。ニーズ調査
- ・ 女性や中高年齢者の受講を促進し、また、就職幅を広げるため、体への負担が少ない訓練科として、短期（6か月）のビルメンテナンス科を新設する。見直しの方向性



3. 主な訓練内容

- ・ ビルや施設の保守管理に必要な技能を習得するため、主に次の訓練を実施する。

- | | |
|----|---|
| 学科 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ビル管理概論（建築構造の概要、建築設備の種類、中央監視システム） ・ 給排水・衛生設備（給水方式の種類と機能、排水通期方式の種類と機能、衛生器具の種類と機能 等） |
| 実技 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 電気設備保守管理実習（受変電・動力・電灯・非常用電源設備の点検・保守・記録、電気工事） ・ 空気調和設備保守管理実習（空気調和機及び付帯設備の保守・雲煙、環境測定） ・ 熱源設備の保守管理実習（熱源設備の保守・運転・管理作業） ・ 給排水・衛生設備保守管理実習（点検・調整・保守、規則、水質測定） |

4. 見直しに伴う機械器具整備

電気工事工具 エアコン機器工具 消防設備工具 冷凍機械シミュレーター ボイラーシミュレーター 消防設備シミュレーター 電動弁セット シーケンストレーナー

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
学科	生産工学概論	工程管理、品質管理
	自動制御	制御理論、制御機器の種類と用途、各種回路
	熱源設備	ボイラー、冷凍機、吸収式冷温水機等
	熱管理	熱収支、燃焼方法、熱量計算
	安全衛生	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
	ビル管理概論	建築構造の概要、建築設備の種類、中央監視システム
	給排水・衛生設備	給水方式の種類と機能、排水通気方式の種類と機能、衛生器具の種類と機能、配管方式、配管図
	空気調和設備	熱負荷、空調方式、機器の種類と構造
	電気設備	電気理論、受変電・動力・電灯設備、配線図
	消防設備	消火設備、警報設備、避難設備、消火活動上必要な施設
	設備図面	各種建築図面の読み方、設備図面の読み方
	関係法規	ビル衛生管理関係法令、高圧ガス保安法、消防法、給排水関係法、ボイラー及び圧力容器安全規則、労働安全衛生法、電気事業法、建築基準法、フロン回収・破壊法
実技	熱源設備の保守管理実習	熱源設備の保守・運転・管理作業
	安全衛生作業法	安全衛生作業法
	給排水・衛生設備保守管理実習	給排水・衛生設備の点検・調整・保守・記録、水質測定
	空気調和設備保守管理実習	空気調和機及び付帯設備の保守・運転、環境測定
	電気設備保守管理実習	受変電・動力・電灯・非常用電源設備の点検・保守・記録、電気工事
	自動制御機器保守管理実習	自動制御機器の点検・保守

見直しの具体案

1. 見直し後の訓練概要

訓練科名	⑨ 総合建築科（仮称）
区分	離職者訓練
定員	10名【本校】
訓練期間	1年【企業実習付】
訓練目標	・木造建築について、CADを用いた設計から大工工事、内装仕上げ等の施工、現場管理まで、総合的な知識、技能を1年間の長期訓練（企業実習付）で習得し、多様な建築職種への就労を目指します。
目標資格	⑨ 2級建築士、木造建築士 ⑨ 技能検定2級（建築大工、内装系）
その他取得可能な資格	⑨ 3級建築CAD検定試験
主な就職先	・建築会社の建築設計士、建築大工、内装工 等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

<ul style="list-style-type: none"> ・現行のエコ住宅リフォーム科（新川センター）の入校率は52%と低い。就職率は67%で低下傾向。現状 ・土木・建設関係の事業所では、作業員から主任技術者、設計を含む全ての職種で人材が不足。ニーズ調査 ・若年者、女性の受講を促進し、また、就職幅を広げるため、建築デザインを含む建設分野全般に対応できる訓練科を新設する（現行の訓練科を再編統合）。見直しの方向性
--



3. 主な訓練内容

<ul style="list-style-type: none"> ・国が定める職業訓練の基準（訓練科：建築施工系木造建築科）を基本としつつ、2級建築士等の資格取得に必要なカリキュラムを追加し、主に次の訓練を実施する。 				
<table border="0"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学科</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・建築設計製図（建築製図） ・建築計画（建築計画概論） ・建築環境工学（建築概論） ・建築設備（建築設備） ・構造力学（構造力学概論） ・建築一般構造（建築構造概論） ・建築材料（建築材料） ・建築生産（木造建築施工法、建築工作法、規矩術、仕様及び積算、建築生産概論、工作実習） ・建築法規（建築関係法規） ・複合関連科目（測量、安全衛生、器工具使用法、機械操作基本実習、測量基本実習、安全衛生作業法） </td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実技</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・CAD実習（OA機器操作、2次元・3次元CAD操作、設計図書（平面・立面・矩計・外内観など各種図面など）） ・施工実習（木造建築物の工事計画、仮設工事、木工事の施工、 </td> </tr> </table>	学科	<ul style="list-style-type: none"> ・建築設計製図（建築製図） ・建築計画（建築計画概論） ・建築環境工学（建築概論） ・建築設備（建築設備） ・構造力学（構造力学概論） ・建築一般構造（建築構造概論） ・建築材料（建築材料） ・建築生産（木造建築施工法、建築工作法、規矩術、仕様及び積算、建築生産概論、工作実習） ・建築法規（建築関係法規） ・複合関連科目（測量、安全衛生、器工具使用法、機械操作基本実習、測量基本実習、安全衛生作業法） 	実技	<ul style="list-style-type: none"> ・CAD実習（OA機器操作、2次元・3次元CAD操作、設計図書（平面・立面・矩計・外内観など各種図面など）） ・施工実習（木造建築物の工事計画、仮設工事、木工事の施工、
学科	<ul style="list-style-type: none"> ・建築設計製図（建築製図） ・建築計画（建築計画概論） ・建築環境工学（建築概論） ・建築設備（建築設備） ・構造力学（構造力学概論） ・建築一般構造（建築構造概論） ・建築材料（建築材料） ・建築生産（木造建築施工法、建築工作法、規矩術、仕様及び積算、建築生産概論、工作実習） ・建築法規（建築関係法規） ・複合関連科目（測量、安全衛生、器工具使用法、機械操作基本実習、測量基本実習、安全衛生作業法） 			
実技	<ul style="list-style-type: none"> ・CAD実習（OA機器操作、2次元・3次元CAD操作、設計図書（平面・立面・矩計・外内観など各種図面など）） ・施工実習（木造建築物の工事計画、仮設工事、木工事の施工、 			

- 内装仕上げ施工、総合課題作成（大工・壁装・床仕上げ）
- ・ 企業派遣実習（実務実習）

- ・ 模擬建築物を活用した実習の実施（及び実習環境の整備）

- ① 国の基準「木造建築施工実習」（150 時間／年）において模擬建築物の活用が必須
- ② 高所作業実技訓練、足場組立作業実技訓練（高所での危険作業の体験）
- ③ 建方の施工実習（実技訓練）
- ④ 冬場（降雪時）が実技訓練の期間となるため、天候に左右されない実習環境が必要
- ⑤ 資格取得の理解を深める（2 級建築士の資格試験問題には 2 階建てしか出題されない）

4. 見直しに伴う施設及び機械器具整備

（1）施設

- ・ 屋根付きの屋外実習場を新築
- ・ 既存施設（木材加工科実習棟）を改修し、CAD 室を整備
- ・ 既存施設（メカトロニクス科第二実習棟）を改修し、製図室を整備

（2）機械器具

- ・ 実技用模擬建築物
- ・ 移設費（機械設備と付帯工事）
- ・ パソコンシステム（CAD ソフト）

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
学科	建築概論	建築の概要、建築物の種類、建築史
	建築構造概論	木造建築、プレハブ建築、枠組壁建築、鉄筋コンクリート造建築、鉄骨造建築
	建築材料	金属系材料、木質系材料、セメント系材料、プラスチック系材料、その他の材料
	木造建築施工法	施工計画、建築環境、仮設工事、木工事、造作工事、内装仕上げ施工
	建築工作法	図板・尺杖等の作成方法、構造材の墨付け及び切組、造作材の木ごしらえ及び取付け
	規矩術	さしがね使用法、勾配、勾・爰・玄の名称及び長さの計算、四方転び、隅木
	測量	測量一般、測量機器、敷地測量、図面及び計算
	建築製図	製図用具及び用紙、製図通則、建築製図の概要
	建築関係法規	建築基準法、建設業法、建築士法
	安全衛生	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
	建築設備	設備計画、給排水設備、電気設備、空調設備
	構造力学概論	力の釣合い、荷重と外力、応力、断面の性質
	建築計画概論	全体計画、各部の計画、計画の進め方、建築環境
	仕様及び積算	仕様書、積算
建築生産概論	機械、工程管理、資材管理、生産管理、契約事務	
実技	器工具使用法	手工具の取扱い、携帯用電動工具の取扱い、内装施工器工具の使用法
	設計実習	木造建築物の設計及び製図、建築意匠計画
	CAD実習	OA機器操作、2次元・3次元CAD操作、設計図書（平面・立面・矩計・外内観など各種図面など）
	機械操作基本実習	携帯用電動機械の使用法、木工・汎用機械の使用実習
	施工実習	木造建築物の工事計画、仮設工事、木工事の施工、内装仕上げ施工、総合課題作成（大工・壁装・床仕上げ）
	工作実習	木工機械及び手工具による加工、建築大工工事、内装仕上げ工事（壁装、床仕上げ）
	測量基本実習	水準測量、角測量、測量図
	安全衛生作業法	衛生作業法、安全作業法
	企業派遣実習	実務実習

見直しの具体案

1. 見直し後の訓練概要

訓練科名	⑨ 建築デザイン科（仮称）
区分	離職者訓練
定員	10名【本校】
訓練期間	6か月
訓練目標	・木造建築について、建築CAD技術を用いた設計を中心に大工工事等の施工実技までを6か月の短期訓練で習得し、建築一般の知識・技能を併せ持った人材として、設計部門のほか多様な建築職種への早期就労を目指します。
目標資格	⑨ 3級建築CAD検定試験 ⑨ 技能検定2級（建築大工、内装系）
主な就職先	・建築デザイン事務所、リフォーム会社の建築CADオペレーター 等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

<ul style="list-style-type: none"> ・現行のエコ住宅リフォーム科（新川センター）の入校率は52%と低い。就職率は67%で低下傾向。現状 ・土木・建設関係の事業所では、作業員・主任技術者を含む全ての職種で人材が不足している。ニーズ調査 ・若年者、女性の受講を促進し、また、就職幅を広げるため、建築デザインを含む建設分野全般に対応できる訓練科を新設する（現行の訓練科を再編統合）。見直しの方向性 ・当初提案では、CADの訓練を行う訓練科として建築CAD科とCADクラフト科が示されたが、両者の位置づけを明確にすべきではないか。意見
--



3. 主な訓練内容

<ul style="list-style-type: none"> ・当初提案の建築CAD科については、木造建築の設計に特化した訓練科とし、名称を建築デザイン科に変更する。 ・主に次の訓練を実施する。
<p>学科 ・木造建築施工法（施工計画、建築環境、仮設工事、木工事、造作工事、内装仕上げ施工）</p>
<p>実技 ・CAD実習（OA機器操作、2次元・3次元CAD操作） ・施工実習（木造建築物の工事計画、仮設工事、木工事の施工、内装工事） ・工作実習（木工機械及び手工具による加工、建築大工工事、内装仕上げ工事（壁装、床仕上げ））</p>

4. 見直しに伴う機械器具整備

<p>パソコンシステム（CADソフト）</p>

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
学科	建築概論	建築の概要、建築物の種類、建築史、室内装飾、設備の概要
	建築構造概論	各種建築工法、構造力学（力の釣合い、荷重と外力など）
	建築材料	金属系材料、木質系材料、セメント系材料、プラスチック系材料、その他の材料
	木造建築施工法	施工計画、建築環境、仮設工事、木工事、造作工事、内装仕上げ施工
	建築工作法	図板・尺杖等の作成方法、構造材の墨付け及び切組、造作材の木ごしらえ及び取付け
	規矩術	さしがね使用法、勾配、勾・爰・玄の名称及び長さの計算、四方転び、隅木
	測量	測量一般、測量機器、敷地測量、図面及び計算
	建築製図	製図用具及び用紙、製図通則、建築製図の概要
	建築関係法規	建築基準法、建設業法、建築士法
	安全衛生	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
実技	器工具使用法	木工手工具の使用法、内装施工器工具の使用法
	設計実習	木造建築物の設計及び製図、建築意匠計画
	CAD実習	OA機器操作、2次元・3次元CAD操作
	機械操作基本実習	携帯用電動機械の使用法、木工・汎用機械の使用実習
	施工実習	木造建築物の工事計画、仮設工事、木工事の施工、内装工事
	工作実習	木工機械及び手工具による加工、建築大工工事、内装仕上げ工事（壁装、床仕上げ）
	測量基本実習	水準測量、角測量、測量図
	安全衛生作業法	衛生作業法、安全作業法

見直しの具体案

1. 見直し後の訓練概要

訓練科名	造園土木科（仮称）
区分	離職者訓練
定員	20名【本校】
訓練期間	6か月
訓練目標	・公園緑地や住宅の庭など緑の空間づくりの知識、技能に加え、造園土木工事に必要な建設機械や測量機器の操作を6か月の短期訓練で習得し、幅広く造園、土木現場への早期就労を目指します。
目標資格	・技能検定3級（造園） 新 移動式クレーン特別教育 新 小型車両系建設機械（整地・運搬・積込み用及び掘削用）運転特別教育 新 玉掛け特別教育
主な就職先	・造園土木会社の植木職、造園師 ・土木工事会社の建設・土木作業員 等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

- ・ 現行の造園管理科の直近5年の入校率は72%で低下傾向。就職率は72%で横ばい。**現状**
- ・ 土木・建設事業者では、造園管理・施工技術者が「不足している」とした割合が多い。事業者からは、造園土木工事に関する技能の要望。**ニーズ調査**
- ・ 若年者、女性の受講を促進し、また、造園だけでなく土木も含めて就職幅を広げるため、造園土木工事で必要となる建設機械や測量機器を活用した訓練を充実させる。

見直しの方向性



3. 主な訓練内容

- ・ 造園土木工事で必要な建設機械や測量機器を活用した訓練を充実させる。次の訓練を重点的に実施する。

- | | |
|-----------|---|
| 学科 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械及び器工具（機械及び器工具） ・ 測量学概論（距離測量、角測量、水準測量） ・ 土木施工法（土工事、コンクリート工事、鉄筋工事） |
| 実技 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械器工具実習（造園用機械の取り扱い） ・ 測量基本実習（距離測量、角測量、水準測量） ・ 土木施工実習（土工事、コンクリート工事、鉄筋工事） |

4. 見直しに伴う機械器具整備

掘削重機（バックホークレーン機能付き） 精密測量機器（トータルステーション） 精密測量機器（デジタルレベル） コンクリートミキサー コンパクター ランマ

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
学科	植物学概論	植物の性質、植物の栽培と管理、植物の病害虫と農業薬品、植物と土壌
	安全衛生	安全作業と衛生作業、安全衛生関係法規
	庭園及び公園	庭園・公園の歴史と様式、庭園・公園の種類と特徴、関係法規
	造園施工概論	造園工事の工法、造園材料、仕様及び積算、設計および製図、関係法規
	機械及び器工具	機械及び器工具
	㊦測量学概論	距離測量、角測量、水準測量
	㊦土木施工法	土工事、コンクリート工事、鉄筋工事
実技	植栽基本実習	土壌の分析及び改良、緑化樹・地被類の移植・植栽、養生作業
	機械器工具実習	建設機械の取り扱い
	安全衛生作業法	安全作業・衛生作業、応急処置・救急処置
	造園実習	造園工作物の工作、簡単な庭の作成
	緑地管理実習	樹木の管理、地被類・花卉類の管理、庭園・緑地の総合管理
	㊦測量基本実習	距離測量、角測量、水準測量
	㊦土木施工実習	土工事、コンクリート工事、鉄筋工事

見直しの具体案

1. 訓練概要

訓練科名	⑨ CADクラフト科（仮称）
区分	離職者訓練
定員	10名【新川、砺波】
訓練期間	6か月
訓練目標	・ 3次元CAD、3Dプリンター、NC工作機械等のデジタルクラフトツールの操作や多様な素材の加工技術を6か月の短期訓練で習得し、幅広くものづくり現場への早期就労を目指します。
目標資格	⑨ 3次元CAD利用技術者試験 ⑨ 3Dプリンター活用技術試験
その他取得可能な資格	⑨ 技能検定（機械プラント製図）3級 ⑨ 技能検定（テクニカルイラストレーション）3級
主な就職先	・ 幅広い製造業の機械CADオペレーター 等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

- ・ 現行のエコ住宅リフォーム科（新川センター）の入校率は52%（特に長期は22%）と低い。就職率は67%で低下傾向。**現状**
- ・ ものづくり系の事業所では、全ての職種でCAD/CAMを使う業務における人材が不足。製造業・建設業では約3割の事業所が新川・砺波センターへのCAD関連学科の設置を希望。**ニーズ調査**
- ・ 若年者、女性の受講を促進し、また、就職幅を広げるため、両センターに、3次元CAD、3Dプリンター、NC工作機械等の操作が習得できる、各種ものづくり系現場に対応した訓練科を新設。**見直しの方向性**
- ・ 当初提案では、CADの訓練を行う訓練科として建築CAD科とCADクラフト科が示されたが、両者の位置づけを明確にすべきではないか。**意見**



3. 主な訓練内容

- ・ 各種ものづくり系現場に対応できるよう、アルミ、プラスチック、木材等の加工技術の訓練を実施する。

- | | |
|----|---|
| 学科 | ・ 材料（金属組織、金属材料、非金属材料、新素材）
・ 製図（JIS製図規則、機械製図、立体製図、CAD） |
| 実技 | ・ CAD実習（2次元CAD（AutoCAD）・3次元CAD（SOLIDWORKS）操作）
・ 工作実習（3Dプリンター操作、マシニングセンタ操作） |

4. 見直しに伴う施設及び機械器具

(1) 施設

既存施設（砺波センター多目的実習場）を改修し、実習場を整備

(2) 機械器具

- ・パソコンシステム（CADソフト）
- ・3Dプリンター
- ・自動加工機（マシニングセンタ）

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
学科	機械工学	機械要素、機構と運動、機械一般
	電気工学	電流と磁気、回路理論、電力と三相交流、電気機器
	NC加工概論	数値制御論、NC言語、NCプログラミング法
	生産工学概論	生産の合理化、計画と統計、品質管理、工程改善
	材料	金属組織、金属材料、非金属材料、新素材
	製図	JIS製図規則、機械製図、立体製図、CAD
	機械工作法	鑄造、鍛造、塑性加工、工作機械、仕上げ、組立
	機械設計	機械要素設計法、機械・器具設計法、
	安全衛生	安全衛生管理、関係法規、リスクアセスメント
実技	OA機器基本実習	OA機器基本操作
	製図実習	機械要素製図、加工図、組立図
	CAD実習	2次元CAD (AutoCAD)・3次元CAD (SOLIDWORKS) 操作
	工作実習	3Dプリンター操作、マシニングセンタ操作
	意匠設計実習	モデリング
	安全衛生作業法	衛生作業法、安全作業法

見直しの具体案

1. 訓練概要

訓練科名	介護サービス科
区分	離職者訓練
定員	20名【新川、砺波】
訓練期間	2か月
訓練目標	・理論的な介護実践が展開できる知識と技術・技能を2か月の短期訓練で習得し、介護現場への早期就労を目指します。
目標資格	・介護職員初任者研修
主な就職先	・介護施設の介護職員 等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

- ・入校率は55%（新川）・68%（砺波）。就職率は78%（新川）・84%（砺波）。現状
- ・介護・福祉系の事業所の4割超で介護員が不足。一方、受講者（求職者）が就職したい業種として医療・福祉の割合が最も高い。ニーズ調査
- ・介護の現場では、手書きではなくパソコンやタブレットに入力して記録を作成するようになりつつあるので、パソコンやタブレットを活用した訓練にしてほしい。意見
- ・介護記録の作成等に必要なパソコン・OAの基礎的な知識の習得を訓練に追加。見直しの方向性



3. 主な訓練内容

- ・在宅・施設介護に必要な技能や基本的な知識の習得訓練のほか、パソコン・OAの基礎的な内容の訓練を追加し、次の訓練を実施する。
- 演習
 - ・介護の基本（介護職の役割、専門性と多職種との連携、介護職の職業倫理、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護職の安全）
 - ・介護・福祉サービスの理解と医療との連携（介護保険制度、医療との連携とリハビリテーション、障害者自立支援制度およびその他制度）
 - ・介護におけるコミュニケーション技術（介護におけるコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーション）
 - ・こころとからだのしくみと生活支援技術（基本知識の学習、生活支援技術の学習、生活支援技術演習）
 - ・OA機器基本実習（OA機器基本操作）

4. 見直しに伴う機械器具整備

なし

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
演習	職務の理解	多様なサービスの理解、介護職の仕事内容や働く現場の理解
	介護における尊厳の保持・自立支援	人権と尊厳を支える介護、自立に向けた介護
	介護の基本	介護職の役割、専門性と他職種との連携、介護職の職業倫理、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護職の安全
	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	介護保険制度、医療との連携とリハビリテーション、障害者自立支援制度およびその他制度
	介護におけるコミュニケーション技術	介護におけるコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーション
	老化の理解	老化に伴うこころとからだの変化と日常、高齢者と健康
	認知症の理解	認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、家族への支援
	障害の理解	障害の基礎的理解、障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識、家族の心理、かかわり支援の理解
	こころとからだのしくみと生活支援技術	基本知識の学習、生活支援技術の学習、生活支援技術演習
	振り返り	振り返り、就業への備えと研修終了後における継続的な研修
	修了評価	筆記試験
	学科 実技	介護一般
コミュニケーションスキル向上演習		介護サービス現場でのコミュニケーションスキル
就職支援		就職指導、社会保障の概要等、就職相談、就職活動
㊦ O A 機器基本実習		O A 機器基本操作
安全衛生		安全衛生管理
	安全衛生作業法	緊急時の対応（救急救命）、安全衛生作業

見直しの具体案

1. 訓練概要

訓練科名	IT・ビジネス事務科（仮称）
区分	離職者訓練
定員	20名【本校、新川】、10名【砺波】
訓練期間	6か月
訓練目標	・簿記会計事務や社会保険等の一般事務に加え、ビジネス社会に必要なIT技術・IT管理の基礎を、6か月の短期訓練で習得し、簿記やITパスポート等の資格取得・早期就労を目指します。
目標資格	・日商簿記検定2級 ・コンピュータサービス技能評価試験2級 ・秘書検定2級 ⑨ ITパスポート
主な就職先	・あらゆる企業の事務職員 等

2. 見直し検討部会・審議会での検討

<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の事務関係の訓練科の入校率は 92%～104%と高い。就職率は 73%から 94%。入校生の 9割が女性。現状 ・ 一方、全事業所の 75%でデジタル人材が不足。ニーズ調査 ・ ITパスポートなど、できるだけ人気のある IT 関連資格が取れるような構成にするとよい。意見 ・ ニーズ調査を踏まえ、簿記会計、社会保険、パソコン操作、接客マナー等、本当に役立つ内容を6か月の訓練において習得できるよう検討すること。意見 ・ 女性のデジタル人材育成の観点も踏まえ、現行のワード・エクセル等の資格に加え、ITパスポートなど IT 関連資格の取得を目指しカリキュラムを充実させる。見直しの方向性 ・ 子育てしながら訓練に通いにくい女性への配慮から、ビジネス事務科をはじめ一部の訓練科で構わないので、オンラインでの訓練環境を整備すべき。意見



3. 主な訓練内容

<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練期間を4か月から6か月に延長し、デジタル技術の活用に関する総合的な知識習得のための訓練を充実させる。 		
<table border="0"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学科</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ システム戦略（システム戦略、システム企画） ・ 開発技術（システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術） ・ コンピュータシステム（コンピュータ構成要素、ソフトウェア、ハードウェア） ・ 技術要素（ヒューマンインタフェース、ネットワーク、セキュリティ） </td> </tr> </table>	学科	<ul style="list-style-type: none"> ・ システム戦略（システム戦略、システム企画） ・ 開発技術（システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術） ・ コンピュータシステム（コンピュータ構成要素、ソフトウェア、ハードウェア） ・ 技術要素（ヒューマンインタフェース、ネットワーク、セキュリティ）
学科	<ul style="list-style-type: none"> ・ システム戦略（システム戦略、システム企画） ・ 開発技術（システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術） ・ コンピュータシステム（コンピュータ構成要素、ソフトウェア、ハードウェア） ・ 技術要素（ヒューマンインタフェース、ネットワーク、セキュリティ） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業・工業簿記、パソコン操作実習、社会保険事務、ビジネスマナー等ビジネス社会で役に立つ知識、技能を習得するための訓練を実施する。 ・ オンラインでの訓練については、現行のOA事務科（本校）でハイブリッド（対面＋オンライン）の試行を既に実施。オンライン訓練が可能な科目は試行実施を重ね、令和6年4月からの本校での本格実施を目指す。 		

4. 見直しに伴う機械器具整備

なし

5. 訓練内容

区分	科目名	訓練内容
学科	簿記	商業簿記、工業簿記、会計
	事務一般	ビジネスマナー、社会保険事務
	文書実務	自己分析、履歴書・職務経歴書の書き方、面接指導
	○A 機器操作法基礎	○A 機器の概要、オペレーティングシステム、ネットワークの利用法、アプリケーションソフト
	○A 機器操作法	○A 機器操作
	安全衛生	安全衛生管理、VDT作業
	④企業と法務	企業活動、法務
	④経営戦略	経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント
	④システム戦略	システム戦略、システム企画
	④開発技術	システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術
	④プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント
	④サービスマネジメント	サービスマネジメント、システム監査
	④基礎理論	基礎理論、アルゴリズムとプログラミング
	④コンピュータシステム	コンピュータ構成要素、ソフトウェア、ハードウェア
④技術要素	ヒューマンインタフェース、ネットワーク、セキュリティ	
実技	簿記実習	商業簿記記帳、工業簿記記帳、検定対策、パソコン会計
	○A 機器操作実習基礎	パソコンの基本操作、オペレーティングシステム操作、アプリケーションソフト
	○A 機器操作実習	○A 機器操作実習
	安全衛生作業	安全衛生作業法